

せいけん
詩集

第九十七篇

作：近藤せいけん

「五月の田んぼ」

田んぼに水がはられる

黒いよぐたがやされた

田に水が流れてゆく

どこに潜んでいたか

カエルが出てきた

田植えがもうすぐ

はじまる

今年ことしは 厳きびしく 寒さむかった

やっと春はるらしい

天候てんこうになつた

巡めぐる

季節きせつはありがたい

遙はるか大山おおやまに

優しい 雲くもがかかる

いつもの 春はる

今年ことしも 会あえた

